

4-6 科学技術社会論

研究・教育活動の概要と特色

経済発展の目覚ましい東北アジア地域の環境エネルギーに関わる諸問題および地球環境問題（地球温暖化問題、越境酸性雨問題、オゾン層破壊問題、捕鯨問題）などに関して、政治経済学や社会学などの社会科学的手法を用いた研究を行っています。特に、1) 地球温暖化対策（税、排出量取引、規制、補助金）や政府開発援助（ODA）などの環境エネルギー分野での国内対策や国際協力の仕組み、2) 2013年以降の温暖化問題の国際的枠組みの検討、3) 科学技術政策と社会との関係のあり方、4) 国際漁業資源管理に関する意思決定を説明する理論構築、効果性評価、制度的相互連関に関する分析、などに関して具体的な政策を提言しています。地域間や国家間にある問題を多角的に研究することによって、国レベル、地域レベル、そして地球レベルの様々な安全保障体制の強化に貢献できればと思っています。

I 組織

1 教員数（2011年9月末現在）

教授：1

准教授：1

講師：0

助教：0

教授：明日香壽川

准教授：石井敦

2 在学生数（2011年9月末現在）

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生
0	0	0	1	0

3 修了生・卒業生数（2007～2011年度）

年度	学部卒業生	大学院博士課程 前期修了者	大学院博士課程 後期修了者 (含満期退学者)
07	0	0	0
08	0	0	0
09	0	0	0
10	0	0	0
11	0	0	0
計	0	0	0

*2011年度は、9月末までの数字

II 過去5年間の組織としての研究・教育活動（2006～2010年度）

1 博士学位授与

1-1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
07	0	0	0
08	0	0	0
09	0	0	0
10	0	0	0
11	0	0	0
計	0	0	0

*2011年度は、9月末までの数字

1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

2 大学院生等による論文発表

2-1 論文数

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
07	0	0	0	0	0
08	0	0	0	0	0

09	0	0	0	0	0
10	0	0	0	0	0
11	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0

* 2011年度は9月末までの数字。ただし、以後の掲載が決定しているものも含む。

2-2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
07	0	0	0	0	0
08	0	0	0	0	0
09	0	0	0	0	0
10	0	0	0	0	0
11	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0

* 2011年度は9月末までの数字。ただし、以後の発表が決定しているものも含む。

2-3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

(1) 論文

なし

(2) 口頭発表

なし

3 大学院生・学部生等の受賞状況

なし

4 日本学術振興会研究員採択状況

なし

5 留学・留学生受け入れ

5-1 大学院生・学部学生等の留学数

なし

5-2 留学生の受け入れ状況（学部・大学院）

年度	学部	大学院	計
07	0	0	0
08	0	0	0
09	0	0	0
10	0	0	0
11	0	0	0
計	0	0	0

6 社会人大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
07	0	0	0
08	0	0	0
09	0	0	0
10	0	0	0
11	0	0	0
計	0	0	0

7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

7-1 専攻分野出身の研究者

なし

7-2 専攻分野出身の高度職業人

なし

8 客員研究員の受け入れ状況

なし

9 外国人研究者の受け入れ状況

なし

10 刊行物

なし

11 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

なし

1.2 専攻分野主催の研究会等活動状況

なし

1.3 組織としての研究・教育活動に関する過去5年間の自己点検と評価

科学技術専攻分野は、地球温暖化、越境酸性雨問題、オゾン層破壊問題、捕鯨問題などの広域にわたる環境問題に関して、科学技術政策と社会との関係のあり方という側面から、学術研究の成果に基づいた具体的な政策提言を行ってきた。すなわち、研究者という立場から、社会に対して積極的にメッセージを発してきた。学生に対しても、そのような社会との関わりを大切にするように指導しており、これからも続けていきたいと考えている。

III 教員の研究活動（2007～2011年度）

1 教員による論文発表等

1-1 論文

明日香壽川, 2011, 「崩壊する日本の温暖化対策」 『世界』, 岩波書店, 2011年3月号, p.57-66

Asuka, Jusen; Li Zhi Dong and Lu Xiang Chun. 2010. What constitutes meaningful participation from China?: An analysis of the Chinese intensity targets. 22. Hayama, Japan. Institute for Global Environmental Strategies. Discussion paper No.3

ASUKA Jusen and LU, Xiangchun. 2010. Quantified emissions reduction target of China: Assessing the Chinese target of 40-45% reduction in CO2 intensity. 4. Hayama, Japan. Institute for Global Environmental Strategies. Discussion paper No.5

明日香壽川, 2010, 「途上国の数値目標をどう考えるか」 『エネルギーレビュー』, 30(4), pp.20-23

明日香壽川, 2010, 「排出量取引と国際競争力—EU、米国、豪州における対応」 『経済セミナー』, 652, pp.38-43

明日香壽川, 李志東, 盧向春, 2010, 「COP15 に向けて中国の意味ある参加とは? —中国政府が掲げる温暖化対策の目標と「低炭素発展」のシナリオを読み解く」 『世界』, pp.92-103

- 明日香壽川, 山本政一郎, 朝山慎一郎, 2010, 「遠藤小太郎ほか論文『極地の氷の融解と海面水位変動に見る環境情報の伝達問題』の中の誤解について」『日本金属学会誌』, 74(1), pp.61-63
- 明日香壽川, 片岡直樹, 大塚健司, 相川泰, 2009, 「技術移転は見果てぬ夢(impossible dream)か?」『中国環境ハンドブック 2009-2010 年版(中国環境問題研究会編)』, pp.94-101
- 明日香壽川, 2009. 「日本政府によるカーボン・クレジット活用策の比較評価および発展経路」『環境経済・政策研究』(第2巻第1号, 2009年, 岩波書店)
- 明日香壽川, 2008. 「中国の温暖化対策国際枠組み「参加」問題を考える」『季刊環境研究』 No.150, p.26-37, 日立環境財団.
- 明日香壽川, 2008. 「温暖化交渉サミットの成果と今後の展望: セクター別アプローチをめぐる混乱を超えて」『世界』2008年9月号, p.82-94, 岩波書店.
- 明日香壽川, 2008. 「排出量取引制度: 根拠乏しい批判の背景に企業の本音」『エネルギー・レビュー』, 2008年8月号, p.12-13, エネルギー・レビューセンター.
- 明日香壽川, 2008. 「北海道洞爺湖サミットと日本のリーダーシップ: セクター別アプローチをめぐる混乱と今後の国際交渉における重要課題」『月間地球環境』2008年8月号, p.34-35, 日本工業新聞社.
- 明日香壽川, 2008. 「地球温暖化の最新情報: セクター別アプローチをめぐる混乱」『環境技術会誌』 No.132, p.33-35, 日本廃棄物処理施設技術管理者協議会.
- 明日香壽川, 2008. 「中国および日本の対応と具体的枠組み案」『アジア経済発展のアキレス腱: 資源枯渇と環境破壊』林華生・浜勝彦・渋谷祐編著, p.156-172, 文眞堂.
- 明日香壽川, 2008. 「地球温暖化対策さらに今なにを: ポスト 2012 年の国際枠組み」『経済セミナー』2008年6月号, No.638, p.35-39, 日本評論社.
- 明日香壽川, 2008. 「温暖化対策の国際的枠組みと日本」『生活経済政策』2008年6月号, No.137, p.3-6, 生活経済政策研究所.

明日香壽川, 2008. 「クリーン開発メカニズムの現状と課題」 『科学』, Vol.78, No.5, p.557-561, 岩波書店.

明日香壽川, 2008. 「温暖化対策の国際的枠組みと日本の役割」 『都市問題』 2008年3月号, p.52-59, 東京市政調査会.

明日香壽川, 2007. 「地球温暖化をめぐる先進国と途上国の対立」 『エネルギー・レビュー』, 2007年12月号, p.7-10, エネルギー・レビューセンター.

明日香壽川, 2007. 「中国気候変動対策数値目標を考える」 『国際貿易』 2007年10月16日, 日本国際貿易促進協会.

明日香壽川, 2007. 「豊かさと公平性をめぐる攻防－国際社会はポスト京都にたどり着けるのか－」 岩波書店『世界』 2007年9月号, p.121-132, 岩波書店.

明日香壽川, 2007. 「中国奔流第13回 深刻化する中国の環境問題」 『日本経済研究センター会報』 2007年10月号, p.16-17, 社団法人日本経済研究センター.

明日香壽川, 2007. 「バックキャスティング・シナリオを実現するためのインセンティブ付与策：市場に明示的なカーボン価格のシグナルを」 平成18・19年度環境省環境政策調査『超長期ビジョンの検討について（報告）：検討員意見』 超長期ビジョン検討会報告書, 環境省.

明日香壽川, 2007. 「環境における中国との共生」 アグネ技術センター『金属』 2007年11月号, p.9-12, 株式会社アグネ技術センター.

明日香壽川・神保哲生, 2007. 「温暖化懐疑論に向かいあう」 『科学』 2007年7月号, p.737-748, 岩波書店.

明日香壽川, 2007. 「地球温暖化懐疑論者への反論および私たちが反省すべき点」 『環境技術会誌 第129号特集 地球温暖化の現状と対策』, p.71-73, 日本廃棄物処理施設技術管理者協議会.

明日香壽川・吉村純・増田耕一・河宮未知生・江守正多, 2006. 「経済学者でもわかる地球温暖化問題懐疑論へ反論」 『経済セミナー』 2006年8月号, p.44-50, 日本評論社.

増田耕一・明日香壽川・吉村純・河宮未知生, 2006. 「地球温暖化への懐疑論に関

する考察」『日本の科学者』2006年9月号, p.36-41, 日本科学会議.

スチンバト・明日香壽川, 2006. 「中国環境」『季刊民族学』第30巻第一号(通巻115号), p.62-63, 国立民族博物館協力.

石井敦

石井敦「生物多様性における科学と政治—サメ類の資源管理を事例に一」、
『生物多様性をめぐる国際関係』、毛利勝彦、大学教育出版、19~43
頁、2011

石井敦「捕鯨問題の「見取り図」」『解体新書「捕鯨論争」』、石井敦、
新評論、3~63頁、2011

佐久間淳子、石井敦「マスメディア報道が伝える「捕鯨物語」」『解体新
書「捕鯨論争」』、石井敦、新評論、147~200頁、2011

石井敦、大久保彩子「日本の捕鯨外交を検証する」『解体新書「捕鯨論
争」』、石井敦、新評論、247~283頁、2011

Atsushi Ishii, Oluf Langhelle 「Toward policy integration:
Assessing carbon capture and storage policies in Japan and
Norway」、*Global Environmental Change*、21巻2号、pp. 358-367、
2011

Jennie C. Stephens, Nils Markusson, Atsushi Ishii 「Exploring
framing and social learning in demonstration projects of
carbon capture and storage」、*Energy Procedia*、4巻、pp. 6248-
6255、2011

Nils Markusson, Atsushi Ishii, Jennie C. Stephens 「The Social and
Political Complexities of Learning in CCS Demonstration
Projects」、*Global Environmental Change*、21巻2号、pp. 293-302、
2011

Atsushi Ishii 「Scientists Learn not only Science but also
Diplomacy: Learning Processes in the European Transboundary
Air Pollution Regime」、『Governing the Air: Science-Policy-
Citizens Dynamics in International Environmental Governance』、
Rolf Lidskog, Göran Sundqvist, MIT Press、2011

大久保彩子、真田康弘、石井敦「鯨類管理レジームの制度的相互連関：分

- 析枠組みの再構築とその検証」、『国際政治』166号、日本国際政治学会、2011
- 朝山慎一郎、石井敦「地球温暖化の科学とマスメディア：新聞報道による IPCC 像の構築とその社会的含意」、『科学技術社会論研究』9号、科学技術社会論学会、70～83頁、2011
- Atsushi Ishii、Ayako Okubo「Japan Has No Whaling Heritage to Preserve」、『Opposing Viewpoints: Japan』、Karen Miller、Greenhaven Press、pp. 95-101、2009
- 石井敦「環境問題の包括的把握---気候変動・オゾン層破壊・生物多様性・海洋」『環境科学会誌』20巻4号、環境科学会、305～307頁、2007
- Atsushi Ishii、Ayako Okubo「An Alternative Explanation of Japan's Whaling Diplomacy in the Post-Moratorium Era」、*Journal of International Wildlife Law and Policy*、10巻1号、pp. 55-87、2007

1-2 著書・編著

明日香壽川

明日香壽川『地球温暖化 ほぼすべての質問に答えます！』（岩波ブックレット）[岩波書店,(2009)]

明日香壽川『中国環境ハンドブック 2009』

明日香壽川『2010年版中国環境問題研究会編』[蒼蒼社,(2007)](共著)

明日香壽川・堀井伸浩・小島道一・吉田綾, 2007. 「中国と日本：エネルギー・資源・環境をめぐる対立と協調」中国環境問題研究会編『中国環境ハンドブック 2007-2008』, p.61-102, 蒼蒼社.

明日香壽川, 2006. 「京都メカニズム」環境経済・政策学会編『環境経済・政策学の基礎知識』, p.224-225, 有斐閣.

明日香壽川, 2006. 「環境と自然災害」環境経済・政策学会編『環境経済・政策学の基礎知識』, p.18-19, 有斐閣.

明日香壽川・大塚健司・相川泰, 2006. 「中国の環境問題」日本環境会議「アジア環境白書 2006/2007」編集委員会編『アジア環境白書』, p.206-214, 東洋経済新報社.

明日香壽川, 金松, 相川泰, 2005. 「中国」『亜州環境状況報告』中国環境科学出版社, p.199-226 (中国語) (本書は、日本環境会議「アジア環境白書 1」編集委員会編『アジア環境白書』,1997年, 東洋経済新報社の中国語翻訳版) .

明日香壽川, 大塚健司, 大野木昇司, 2005. 「政府間協力および国際機関・団体の活動」 『中国環境ハンドブック 2005-2006』, p.390-433, 蒼蒼社.

石井敦

石井敦『解体新書「捕鯨論争」』（編著）、新評論、2011。

1-3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

なし

2 教員の受賞歴（2007～2011年度）

なし

IV 教員による競争的資金獲得（2007～2011年度）

（1）科学研究費補助金

明日香壽川

基盤研究（C）（2）「コスト効果性を中心とした日本政府温暖化施策の総合的評価」（平成 19-21 年度）金額 130 万円（平成 19 年度）

基盤研究（C）（2）「カーボン・クレジットの格付け方法の研究」（平成 17-18 年度）金額 240 万円

石井敦

若手研究（B）「炭素隔離技術のマスメディア報道に関する定量的・定性的研究」（平成 22-23 年度）（平成 22 年度は 90 万円）

若手研究（B）「炭素隔離技術に関する国際的技術アセスメントの有効性評価とその要因分析に関する研究」（平成 20-21 年度）金額 156 万円

V 教員による社会貢献（2007～2011年度）

明日香壽川

（社）海外環境協力センター理事（2007年～）

環境省：自主参加型排出量取引制度 CA 委員会委員長（2006年～）

外務省：G8 洞爺湖サミットでのカーボン・オフセット実施事業に関する有識者による検討会（委員長）（2008年）

外務省：東アジア・シンクタンク・ネットワーク」（NEAT）環境作業部会温暖化問題研究会委員（2008年～）

環境省：国内排出量取引検討会委員（2008年～）
環境省：カーボン・オフセットに係る課題別ワークショップ委員（2008年～）
環境省：VERの認証基準に関する検討会委員（2008年～）
日本郵便：カーボン・オフセット年賀寄附金審査委員（2007年～）
環境省：自主参加型排出量取引制度検討会委員（2008年～）
環境省：中央環境審議会地球環境部会気候変動国際戦略専門委員会委員
（2004年～）
環境省：超長期ビジョン検討会委員（2006年～）
経済産業省：産業構造審議会地球環境部会市場メカニズム委員会委員（2005
年～）
環境省：カーボン・オフセットのあり方検討会（2007年～）
地球環境戦略研究機関地球温暖化問題将来枠組みワーキンググループ委員（2005
～）
環境省：JI/CDM支援委員会委員（2007年～）
日本カーボン・オフセット・フォーラム・アドバイザー（2008年～）
環境省：柔軟性メカニズムプロジェクト支援委員会（2010年～）
環境省：気候変動影響統計整備ワーキング・グループ委員（2010年～）
環境省：特定者間完結型カーボン・オフセット検討会委員会委員（2010年
～）
環境省：国内排出量取引制度検討会委員（2008年～2010年）

石井敦

環境省：EANET発展戦略に関する懇談会検討委員（2009年度～）
環境省：水銀に関する国際的な法的枠組みの検討に係る調査検討委員会検討委員
（2007年～）
環境省：EANET協定化タスクフォース委員（2005年～2008年度）

Ⅵ 教員による学会役員等の引き受け状況（2007～2011年度）

明日香壽川

中国環境問題研究会代表（2004年～）
環境経済・政策学会理事（2004年～）
国際アジア共同体学会理事（2007年～）

Ⅶ 教員の教育活動

（1）学内授業担当（2011年度）

1 大学院授業担当

明日香壽川

1 学期、文学研究科、科学技術論特論（2単位）

1 学期、文学研究科、科学技術論研究演習（2単位）

1 学期、ヒューマンセキュリティプログラム, “Environmental Security and Energy Security” (2 単位)

2 学期、環境科学研究科, 地域環境・社会システム学概論 (2 単位)

通年、環境科学研究科, 地域環境・社会システム学修士セミナー (4 単位)

通年、環境科学研究科, 地域環境・社会システム学修士研修 (6 単位)

通年、環境科学研究科, 地域環境・社会システム学博士セミナー (6 単位)

通年、環境科学研究科, 地域環境・社会システム学博士研修 (8 単位)

石井敦

第 2 学期、環境科学研究科, 地域環境・社会システム学概論 (2 単位、3 回)

通年、環境科学研究科, 地域環境・社会システム学修士セミナー (4 単位)

通年、環境科学研究科, 地域環境・社会システム学修士研修 (6 単位)

通年、環境科学研究科, 地域環境・社会システム学博士セミナー (6 単位)

通年、環境科学研究科, 地域環境・社会システム学博士研修 (8 単位)

2 学部授業担当

明日香壽川

(全学教育：学部生対象) 前期, 自然論, 「科学技術とエネルギー」 (2 単位)

石井敦

(全学教育：学部生対象) 後期, 自然論, 「環境外交における科学と政治」 (2 単位)

3 その他

(2) 他大学への出講 (2007~2011 年度)

明日香壽川

大阪大学：大阪大学大学院工学研究科「環境リスク管理のための人材養成」プログラム「グローバルリスク政策論」 (2006 年度、2007 年度)

石井敦

京都大学：全学共通教育「地球環境問題と国際合意形成」 (2008 年度、1 回)